



情
禁
+ 禁

DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止



「やっと来てくれた…今日もたくさん愛してね？」
紫はスルスルと服を脱いでいき、その美しい肢体を目の前にさらけだした。
美しい白い肌、爆乳といってもいい乳房、むっちりとした尻。
ついこの間まで生娘だったとは思えないほど、紫はいやらしい肢体になっていた。
そのすべてが今自分の手の届くところにあると思うと、
硬くならないほうがおかしいだろう。

紫の頬に手を当て耳をくすぐると紫は嬉しそうに目を細める。
「ん…くすぐったいわよ。ふふ…」
「あなたに触れられているだけで、幸せなの…」
「こんな気持ちになるなんて、本当に不思議だわ。」
紫は頬に当てられた手に頬ずりをしながら愛らしげに言う。

「さあ…しまししょう？」
きゅっとやさしく握り返してきた。

6/キス & 57/排卵誘発剤



そっと紫の頬を触り軽くキスを交わす。そして紫の口腔を隅々まで舐め回すと、紫も積極的に舌を絡めてきた。

「ん…あむっ…ちゅっ…ん…」

舌を絡め、唾液の交換をする。紫の舌は熱くとろとろとしていて溶け合ってしまいそうなほどだ。

「ん…ふう…あなたあ…好きい」

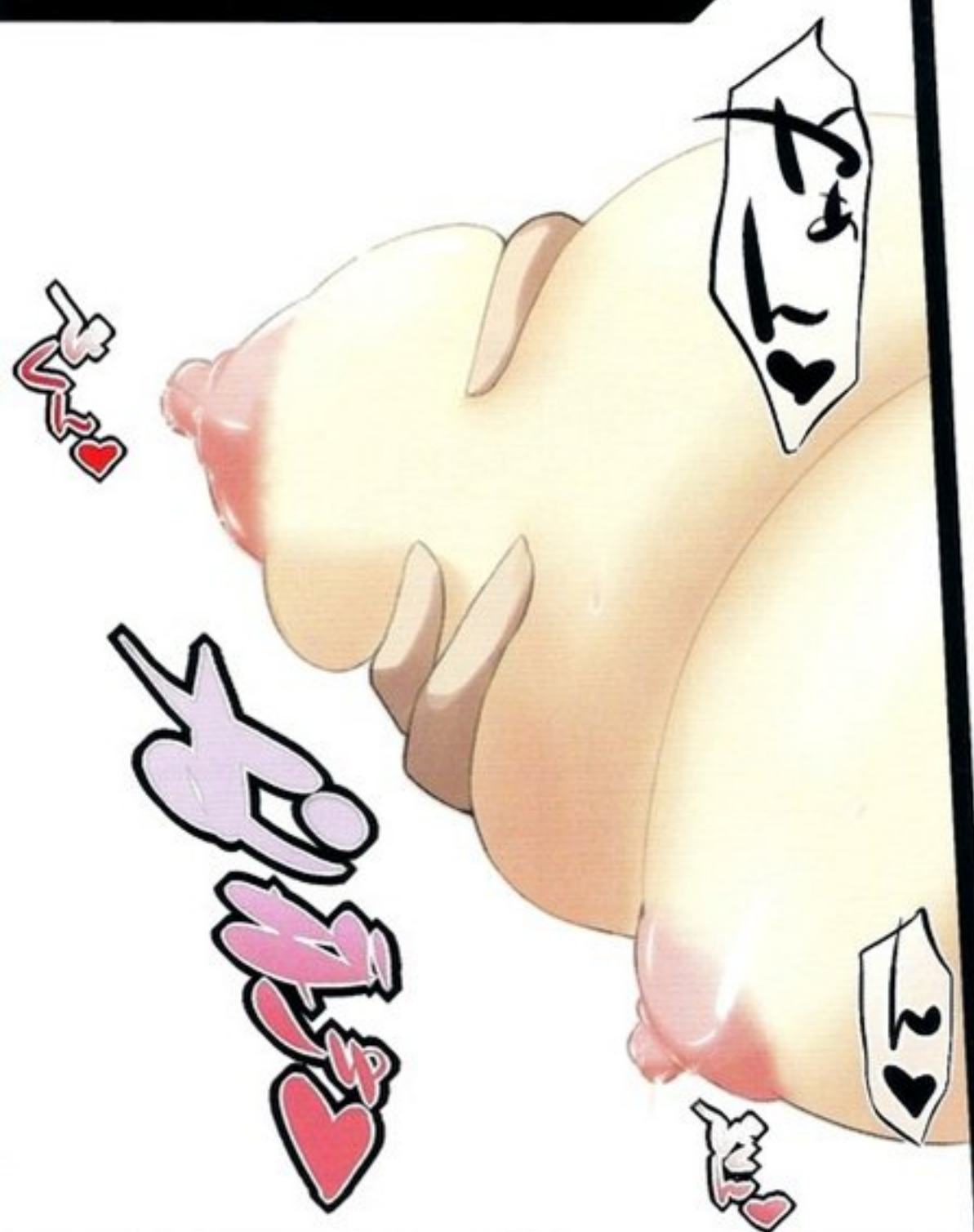
トロンとした表情でキスを交わし続ける。その瞳を見ているだけで私の情欲を駆り立てる。

「んっ…ちゅぶ…もっと…もっとよ…」

「ん…ふあ…あ…ん…ちゅる…ちゅ♡」
「キスだけじゃ…物足りないわあ…」
キスを続けながら、紫は身体をこちらに預けてきた。



紫に口移して排卵誘発剤を飲ませた。何を飲まされたかわからない紫は不安そうにこちらを見つめている。
「何を…飲ませたの？」
「え…子供を…作りやすくするクスリ？」
これまで幾度となく注いできたのに中々できない。そういう体質なのか、運がないのか…間違いなく生理は来ているはずなので、孕むと信じて注ぎ込み続けるしかない。
「ごめんなさい…ね。薬まで使わせてしまっで…」
「あとはあなたの頑張り次第ってことかしら。精一杯気持ちよくしてあげるから一杯注いで？」
「今日は絶対あなたの子種で受精させて。二人の結晶…あなたの子供孕ませてね…♡」



紫の手に余るほど大きな胸を揉みしだいた。
「んっ…んっ…あ…あ…どう？大きいとやっぱり興奮するの？」
その通りだと言わんばかりに、揉み続けるとそれだけで感じまくって身体を跳ねさせ、
目の前でその爆乳を大きく弾ませてこちらの眼を楽しませてくれる。
「っあ…あ…おっはいも…乳首も気持ち…いい…こんなに感じる…なんてえ…」
妊娠はしていないし、母乳も出ないけれどもこんなに目の前で揺らされたら絞りたくなる。
「…あはっ…もう…なにしてるの…んっ…おっはいなんて出ないわよお…んっ…乳首があ…っ」
絞り込むことで更に硬くなった紫の乳首をつまみあげ、愛撫していく。
「んっあ…！あ…敏感だからあ…そんなひっぱっちゃ…だめえ…んっ…っあんっ」
紫は強い刺激にたまらないように身体を震わせ、舌をだして悶えている。



「ん…ちゅ…れろれろ…れるうう…ちゅっちゅっ♡」

紫はペニスの根元から龟头まで愛おしそうに舌を這わせている。

「あなたって私のお口、本当に好きよねえ……え、紫のすべてが好きだって？」

もう、そんな恥ずかしくなることばかり言って……仕方のない人♡

紫の舌が、唇がペニスを刺激していく。また上手くなったのではないだろうか

「ん…あなたのおちんぼ…熱くて硬くて…ちゅうちゅ…っお汁も…んく…全部…おいひい♡」

ペニスを丹念に営め回しながら紫はうっとりつつぶやく。その間も舌は龟头から離さないままだ。

「ふふ…そんなにビクビクして。もっとしてほしい？」

紫の口内が極上ということはわかっている。早く、早くとペニスを震わせる。

「ふふ、可愛いおちんぼ♡ なら、私の口まんこでもっともっと…気持ちよくなってね？」

紫はそう言うと、ペニスに舌を添え、ゆっくりと啜えこんでいき激しく吸い上げ始めた。

「じゅるっ…るううううっんっんっじゅっ…じゅるっ！ちゅるる！…んふ…ちゅる…ちゅう…っちゅ♡」



「はむ…はむ…じゅる…ちゅぽちゅぽ…もごもごもご…んふふ…んじゅ…」
「ちゅっ…ちゅるっ…れろれろ…んんっ…じゅるるるるっ…コク…コクン…」
紫は竿をストローのように吸い上げ、トロトロの汁をコクコクと味わっている
竿にはもちっとした紫のおっぱいがまとわりつきさながらパイズリフェラのような。
「じゅる…じゅるるう…ちゅぽちゅぽ…じゅるっ…っふはあ…ふふ…すごい量。おいしいわ♥」
しかしあと少しで射精というところで紫はフェラチオをやめてしまった。
ビクンビクンと震えるペニスを見つめながら紫は満足そうにしている。
「ふふ…まだダメよ…？その玉の中にもっともっと…濃厚な精液ためこんで…？」
紫はそっと亀頭にキスをしてあなたにお願いした。ビクンとペニスが揺れる。危ない。
「子供、作るんでしょ？それに…最初の濃厚な精液を口じゃあもったいないんじゃないかしら？」
そんなことを言われてしまったら、仕方ない。ここは耐える時だと力をいれる。
「わたしだって…本当は…んく…飲みたいんだから…我慢してね？」
そういうと紫は…

紫はうっとりとした表情をしながら
 その豊満な胸でペニスを包み隠している。
 「すご…あなたのおちんぼ…びくびくして、
 おっぱいの間で暴れてるわ…すごく熱い…」
 紫は自分の乳房の間に唾をたらし、にちゃにちゃと
 ペニスを絡めていく。
 「んん…えろ……ふふ、あなたのお汁が多いから
 そんなに必要ななかったかしら？」
 紫はその豊満な乳房を上下左右に動かし
 ペニスをこねくり回していく。
 ガマンをするこちらの身にもなってほしいものだ。

ゴッぽんぽん

んんんん

ぽんぽん

たっぴん

たっぴん

たっぴん

紫のおっぱいに包まれながら、にちゃにちゃと動かされていると
 「ああ…すごい…お汁がどくどく溢れてきてる…ん…ほら…もっと我慢よ？」
 紫はそう言うが、責める手を休めることはなくペニスをしごきあげている。
 龟头はすでに胸の合間を脱し、竿だけがおっぱいに包まれているせいで、じわじわとくるのがきつい。
 じっとペニスからあふれ出す汁を見つめながら、紫はおっぱいを揉み上げている。



白く美しい肌の紫の豊満な胸にペニスを埋めていくと
 紫の膣にいれているような錯覚に陥った。にゆるにゆると
 まとわりつく乳肉。ぬるぬるとする自分の汁と紫の汗と唾。
 「そんなに腰振っちゃってえ…紫の中に入ってるみたいだ。って？」
 「んっ♡んあっ…そんなに…気持ちいいの？」
 「それじゃ、私のおっぱいまんこ…存分に犯して…ね？」
 遠慮なく突き上げていく。
 硬くなった乳首も巻き込むようにしてあげると紫も
 気持ちがいいのか舌をだして喜んでいる。
 「んっあ…おちゃん息あつい…乳首気持ちいい♡いっ♡んああ♡♡」



紫はあなたの上にまたがり、我慢に我慢を重ねたペニスを同じく我慢しつづけた膣口へ導いていくと、ゆっくりと腰を下ろしていく。すでに限界のペニスはビクビクと脈打ち膣内に入れる喜びを表している。「沢山愛してあげるから…あなたはじっとして？溜めにためた精液…全部わたしの中にちょうだい…入って…き…たあ！！ああっ…ん…ああ」！すご…こんなにおっきいなんてえ…！」紫はそう言うと、腰を最後まで落とし、ペニスをギュッと締め付けてくる。「すご…まだ全部入ってないのに…おちんちんがあ…んあっ…子宮口にキスしちゃってるう♡」「んあっ♡…あっ…あ…あ…っ♡…しゅごい…こんなに…気持ちいいなんて…ひゃあん♡」子作りの快楽にすでに理性は蕩けはじめ、牝の肉体は、紫の膣は、子種を求めて食欲にうごめいている。「はあ…んっ…あ…ああ…きもひいいっ…あなたのおちんちん…すごすぎてえ…こんなあ♡…あん♡！！」



「ん…たくさん…出たわね、まだ…んっ…出てるわ♡」
 紫の膣内が残っている精液を搾り取ろうときゅんきゅんと締め付けてくる。
 「ん…はぁ…あ…もっと…もっと注いで？わたしの膣内で…気持ちよくなって、孕ませて？」
 紫はそう言うのを浮かせていく。ゆっくりと膣壁が離れまいとペニスを刺激していく。
 「んあ…あっ…はぁ…あなたのおちんぼ…すご…まだこんなにガチガチなのね…ん♡」
 抜けそうになったところで、紫の尻をつかみ力任せに腰を落とさせ、それにあわせて思い切り膣内を突き上げた。
 「————っ！！！！？？？？…んっあ…あ…あ…あ…あ…♡」
 突然襲い掛かってきた強烈な快感に紫はすぐに絶頂した。
 「またイッたはか…り…んっあっあっ…！また…イッちゃあ！」
 絶頂したばかりの紫の膣内を蹂躞し、子宮口をこじあけるように、短いテンポで突き上げはじめた。
 ほちゅ！ほちゅ！と精液が押したされ、淫猥な音を響かせる。



紫の膣奥まで差し込んだところで一度止めるとビクビクと膣内が攻め立てる。
「…あっ…んっあ…もう…いきなり…激しいわよお…んちゅ…ちゅっ♡…ん」
紫の唇はとて柔らかくそして気持ちがいい。
紫と触れ合っているだけで幸せになれる。そっと優しく背中を撫であげる。
「あ…♡…もう…急に…ちゅ…ん♡…好き…ちゅっ…ちゅぶ…しゅきい…♡」
紫の腰に手をまわしきゅっと抱きしめ、愛を囁きあう。
「あなたの…温もりが心地いい…んちゅ…♡」
キスを繰り返していると紫が切なそうに腰を動かしていた。
「んっ…ふ…ああ♡…ねえ動いて？もう大丈夫だから…愛してちょうだい…」
ゆっくりと膣奥から抜き、そして段々と速度をあげて腰を動かしていく。
「ん…あっ…んあ…気持ち…いい、もっと…もっと愛して…」



紫の瞳にいったままそっとベッドに横たえる。
 「私、この体位がやっぱり一番好き…あなたの重さ、
 あなたの温もり…そしてなによりも
 あなたと一つになっていることが実感できるの…」
 「人と妖ではなくて、あなたと本当に一つになってる…」
 紫はそういつつ、足を絡め腰を押し付けてきた。

「ん…っじゅる…っ愛しれるう…あなた！らから…」
 「もっと精液頂戴…！あなたの子供…っ早く…」
 紫の子宮口が言葉に応じてゆるくなった気がする。
 亀頭が入り口をこじあげ子宮内へと入り込む。
 「あ…っあ…っ——！！おちんちん入っ…てきたあ♡」
 「子宮…が…んあ！あっ…あぐっ…おちんちんてえ
 壊されちゃ…ああっ…はやく射精ひてえ…♡」
 ビュブッ！ビュルルウウウ！！ビュルルッ！！！！
 「あ…っ——♡あ…っ…き…たあ…♡あなたの…直接う…♡」
 子宮内で暴れる射精中のペニスを子宮口が
 きゅっきゅっ締り上げ、射精を促してくる。
 紫は子宮内で受け止めた射精の快感に
 涎をこぼしながら絶頂している。





おっぱい

おっぱい

おっぱい

おっぱい

おっぱい
おっぱい
おっぱい

おっぱい

おっぱい

おっぱい
おっぱい

おっぱい
おっぱい

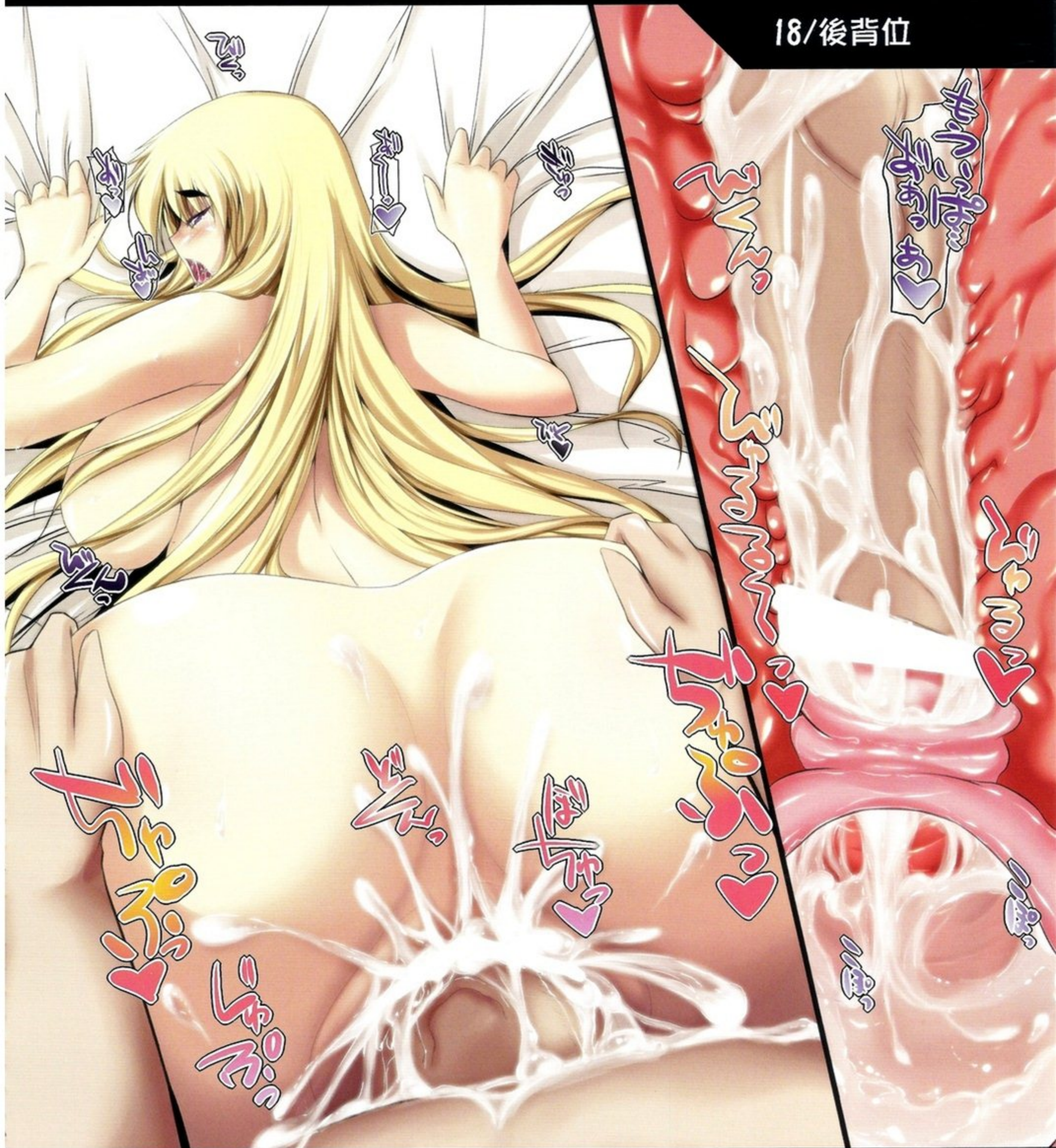
おっぱい

おっぱい
おっぱい

おまんこ

おまんこ

おまんこ
おまんこ
おまんこ



膣内から抜き去ることなく、紫の背後に回り、再び腰を動かし始める。
一度でも子宮口をこじ開けてしまえば、すでに壁はないも同然のごとく子宮まで突きおとされる。
「あ…あっ…はあ！…もっと…もっと突いてえ…もっとあいしれ…！！」
剛直が子宮まで突きこむと先ほど注ぎ込んだ精液をかきまぜ、押し込み、子宮壁を圧迫する。
ごちゅん！ぼちゅん！と卑猥な音を盛大に響かせながら、紫のおまんこを改造していく。
紫は口からはだらだらと涎をこぼしながら、陰唇からは潮と精液を噴出しながら絶頂している。
「らめっらめええ…もうイキっぱなしなのおっ！！子宮おちんぼでえくられてからあ戻れないのお！」
紫の膣内は幾度となく絶頂を迎えようとも、孕みたい一身で膣圧がゆるむこともなく刺激してくる。
「イっひゃ…あ…っ…あっ…らめ…あ…射精しながら…うごいひゃ…子宮こわれりゅう…♡」
すでに子宮は精液で一杯になり卵管にまで浸透していることだろう。
その回数は数えられるものではなく、夥しい量の精液が、膣とペニスの合間から吹き零れている。
「こんにゃに…溢れ…ひゃって…もったいな…んああ…！ああ…あ…っ…また…子種きたああ♡」
溢れた分だけまた注ぎ込めばいい。紫を懐胎させる、という行為があなたを萎えさせるわけがなかった。



「は...は...は...もう...らめよお...限界...なの...お」
紫の膣内から未だ大きなままのペニスをズルリと引き抜くと、紫はそのままベッドに崩れ落ちた。
幾度となく膣内に注ぎ込み続けた精液が、こぼり、こぼりと溢れ出てくる。
紫とあなたはその様子をじっと見つめていた。
「ん...はあ...でてきちゃう...せっかくがんばってくれたあなたの精液が...ん...だめよお...」
紫はどうかしようとするが、はっきりと開いたままの膣口ではどうすることもできないようだ。
「でもこれだけ...子宮に精液が貯まったら...きっと赤ちゃん...出来てるわよね...ふふ♡」
とても嬉しそうに、微笑む紫を見ていると自分のペニスにまた力が戻ってきていた。
糊の塊のような精液が未だに溢れている膣口に狙いを定め、腰をすすめる。
「え...ええ!? まだ...出来るの...? んぐっ...っあう...溢れた分をまた注いであげる。って?」
「でも...もう今日は...んあぁ! あ...っん...あぁ...っ! も...もおだめえ...!!」



「ん…今日もお疲れ様。あ、じっとしていて？私がしてあげるから…」
 「仕事帰りで疲れているはずなのに、おちんちん、こんなにして…もう」
 「え？帰ったら紫といちゃいちゃするんだって思ったら午後からずっと？」
 「連絡してくれたら、スキマでいってあげたのに。ふふ、可愛い人ね」
 「ちゅ♥もうおちんちん、びくびくしてる。でっかいそう？」
 「ほら、ガマンしなくてもいいから。身を任せて。あなたが大好きなこのおっぱいでつつんであげるから…」
 「ちゅっ…んっ…顔にも、胸にも出していいから…んっちゅぶ……んく…ちゅぽ」
 紫は手に余るほどの爆乳を使いペニスをつつみこみこすりあげていく。
 「ん…すご…こんなにももう溜まっていたの？…朝にあれだけ飲ませてもらったのに…」
 「ちゅる…ん…やっぱおいひい♥あなたの精液…くせになっちゃったわ…♥」
 精液をおいしそうにする紫だが、切なそうに乳首を未だにこすりつけている。
 「ひゃあ！！…やん…もうそんなに乳首ばかりいじられたら…ミルクでちゃ…ん…んううううう！」
 豊満な乳房の張り詰めた紫の乳首をぎゅっつつまんであげると、勢いよく母乳を噴きだした。
 紫の乳首からはとめどなく母乳が溢れだし、精液とまざりあって、紫のおっぱいは汁まみれになっている。

<噴乳経験+1>
 <奉仕快樂経験+2>
 <強制精飲絶頂>



あー♡

うん♡

好き♡
あんなに
すきなの♡

おん♡

あー♡

ん♡

あー♡
あー♡
あー♡

ん♡

あー♡
あー♡
あー♡

あー♡
あー♡
あー♡

ん♡

ん♡



あとがきを含めて。

ども、はじめましての方ははじめまして。
今までの方はこんにちわ！すていえるです。

このC78で、同人に復帰して約一年になります。
ここまで紫と一緒にやってこれたのは
本を手にとっていただいた皆様のおかげであり、
今回も紫をめいっぱい愛せましたありがとうございます。
と、堅苦しい挨拶なんかはこのあたりでやめにして…

今回はフルカラー本でしたが、いかがでしたでしょうか。
以前のほうがよかった、とかありましたら
レッツメール！
Pixivでアンケートなんかもやってると思いますので、
判断していただけると嬉しいかもしれません。

今回の本は皆さんご存知だと思いますがeratohoを
元にした本となります。バリエーションが何かは
明記しませんが、たぶんちらほらと
見たことのある口上があったかもしれませんね。
作ろうとしたきっかけは、単純に紫の口上が
アップデートされないから、といういつもどおりいえば
いつもどおりの自分本位の本です。

少し紫との馴れ初めなんかを語っちゃおうかな
とかなんとか。ほら、せっかくのフルカラー本ですし、
色々とほじくりかえしましょう。

紫と出会ったのは、珍しくゲームではなく
BGMと書籍からでした。
ゲーム自体はSTGが苦手の自分には
妖々夢をノーマルクリアとか難易度高すぎて。。

Pixivの影響も大きかったですね。
ふとまゆかりんと出会えたことが一番の僥倖
だったのではないのでしょうか。
金髪、ふとまゆ、おっばい、最強？とか
惹かれる要素ばかり…
昔の自分であれば1冊でも出せば満足して
別のキャラを描いていたのですが、紫に限っては
そんなこともなく今回ふくめて6冊となりました。
…すごい。ここまでのめりこめるなんて…
紫愛してるー！！

左の絵は
去年に抱き枕欲しい。紫といっしょに寝たいー。
抱きしめて顔をおっばいにうずめたいーとか思って
描いてました。今回のおまけページのために
顔パーツと髪の毛のみ塗りなおしてみました。
以前のイラストはPixivに残っているので
見比べてみるとおもしろいかもしれませんね。
いやはや紫可愛すぎでしょう。愛してます。

紫は俺の嫁！！
とか大手をふって言えるわけがないので
自分が描く紫だけは、この紫だけは…
自分自身が満足できるように
描き続けていきたいとおもいます。

って締めちゃだめだ。
今回のようなえっちな紫も大好きですし、
左のページのようにかっこよく構えた紫なんかも
今後はちょくちょく描いていけたら
また幅が広がるかなあと思いつつ、
やはり次回もおっばいおっばいになりそうですw

左ページに続く。

右の絵は、ふとっかいいい紫も描きたい。
強者たるものを描きたいと不慣れながらも
じっくり時間をかけた一枚ですね。
去年9月頃の絵ですね。自分的にもこれが精一杯だった
と思います。Pixivにて初めて一般デイリーに載ったのも
このイラストでした。
ちょうどサンクリ当日だったことを覚えています。
背景も雲と月のみのシンプルなものですが、相当悩んで
スティッカムで色々相談したりしましたねー。

お気に入りには、スキマの眼なのはいうまでもない(え

下の絵は、例大祭集合絵企画に投稿したときの紫ですね。
はじめは傘だろ、とか思ったんですが
右の絵のリメイクもおもしろいなあと。

じっくり細かいところまで描けて
楽しかったですね。
刀の装飾なり、できる限り細部まで。
愛があれば何でもできる。
と実感したりしなかったり。



そういえば、
スキマを使って「千本〇」
とか考えてたのはここだけの話w
ブ〇ーチです。本当にありが(ry

一年を通してPixivにはお世話に
なりっぱなしで、紫を描かなかった
月はほとんどなかったのかな。
そのおかげで、ここまで紫を可愛く
描けるようになって自分的には
満足です。今後もゆっくり
紫を愛していければと思います。
そっと、生暖かい目で見守ってください。
よろしくおねがいします。

今後の予定としては、
受ければですが初めての関西
紅楼夢、久々のサンクリ、
そして冬コミケということになります。

また次の本でお会いできることを
祈りつつ、締めとさせていただきます。



愛情経験+紫

奥付

■誌名

あいじょうけいけんぷらすゆかり
(限月:6冊目)

■サークル

限月

■発行日:初刷

二〇一〇年八月十四日
コミックマーケット78

■発行者

すていえる

■印刷所

ねこのしっぽ様

■メールアドレス

taoyaka3@nifty.com

■ホームページ

<http://kagitsuki.web.fc2.com/>

■PixivID

773856

■すていっかむ

stieltaoyaka

■ついったー

stiel_



愛情
経験
十集

TOHO PROJECT FANBOOK

PRESENTED BY KAGITSUKI